

1 令和元年産花きの作付（収穫）面積及び出荷量の動向

作付（収穫）面積は、切り花類が1万3,800ha（対前年産比97%）、球根類が259ha（同90%）、鉢ものの類が1,549ha（同97%）、花壇用苗ものの類が1,327ha（同96%）となった。

出荷量は、切り花類が34億8,200万本（同99%）、球根類が7,630万球（同89%）、鉢ものの類が2億500万鉢（同98%）、花壇用苗ものの類が5億7,900万本（同97%）となった。

表1 令和元年産花きの類別作付（収穫）面積及び出荷量（全国）

類別	作付（収穫） 面積	出荷量	対前年産比	
			作付（収穫） 面積	出荷量
	ha	万本（球・鉢）	%	%
切り花類	13,800	348,200	97	99
球根類	259	7,630	90	89
鉢ものの類	1,549	20,500	97	98
花壇用苗ものの類	1,327	57,900	96	97

注：1 球根類及び鉢ものの類は、収穫面積である。

2 出荷量の単位は、切り花類及び花壇用苗ものの類が万本、球根類が万球、鉢ものの類が万鉢である。

2 類別・品目別の作付（収穫）面積及び出荷量の動向

(1) 切り花類

作付面積は1万3,800haで、前年産に比べ370ha（3%）減少した。これは、生産者の高齢化等により規模を縮小したこと等による。

出荷量は34億8,200万本で、前年産に比べ5,200万本（1%）減少した。これは、作付面積が減少したこと等による。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が18%で最も高く、次いで沖縄県が8%、福岡県、静岡県及び長野県がそれぞれ5%となっている。

品目別出荷量割合は、きくが41%で最も高く、次いでカーネーション、ばら及び切り枝がそれぞれ6%、ガーベラが4%となっている。

図1 切り花類の作付面積及び出荷量の推移

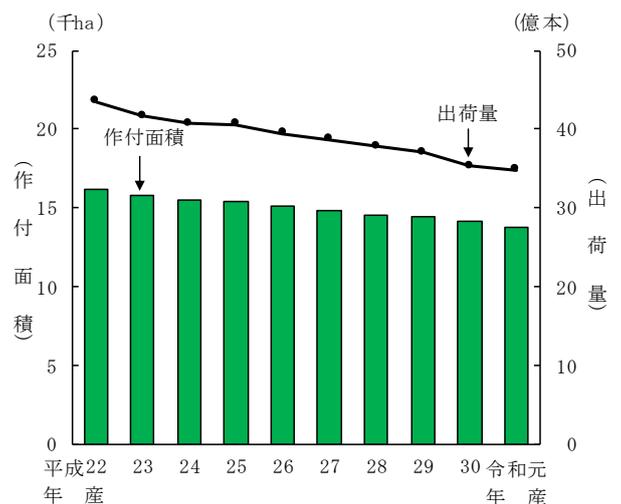


図2 切り花類の都道府県別出荷量割合

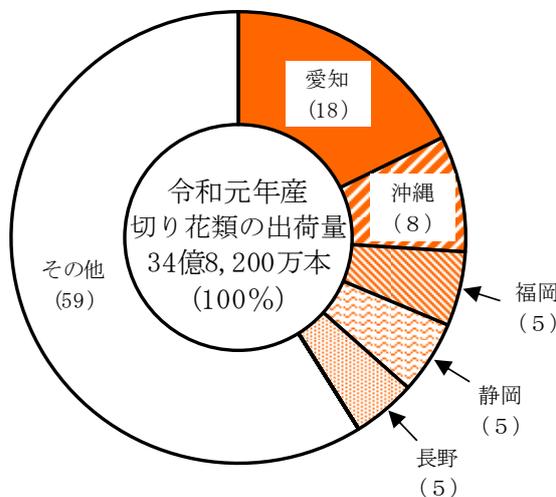


図3 切り花類の品目別出荷量割合

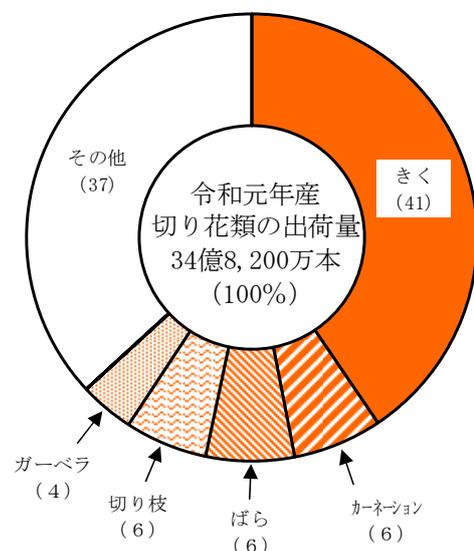


表2 令和元年産切り花類の作付面積及び出荷量（全国）

類・品目	作付面積	出荷量	対前年産比	
			作付面積	出荷量
	ha	万本	%	%
切り花類	13,800	348,200	97	99
うちきく	4,490	141,200	96	99
うち輪ぎく	2,306	74,700	nc	nc
スプレイぎく	712	24,780	nc	nc
小ぎく	1,473	41,700	nc	nc
カーネーション	271	22,270	93	95
ばら	302	22,120	93	94
りんどう	422	8,520	98	96
宿根かすみそう	194	4,870	97	98
洋ラン類	119	1,460	96	95
スターチス	170	11,900	91	98
ガーベラ	82	13,660	93	95
トルコギキョウ	424	9,710	100	99
ゆり	693	12,400	97	95
アルストロメリア	79	5,750	101	105
切り葉	609	12,180	94	108
切り枝	3,620	20,590	99	101

注：1 切り花類の値は、表章されている内訳品目以外の品目を含んだ合計である。
 2 本年産は、全ての都道府県を調査対象とする全国調査を実施した。
 なお、きくの内訳品目（輪ぎく、スプレイぎく及び小ぎく）については、全国調査年のみ調査を実施することとしている。

ア きく

作付面積は4,490haで、前年産に比べ173ha（4%）減少した。

出荷量は14億1,200万本で、前年産に比べ1,200万本（1%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が34%で最も高く、次いで沖縄県が18%、福岡県及び鹿児島県がそれぞれ6%、長崎県が4%となっており、この5県で全国の約7割を占めている。

図4 きくの作付面積及び出荷量の推移

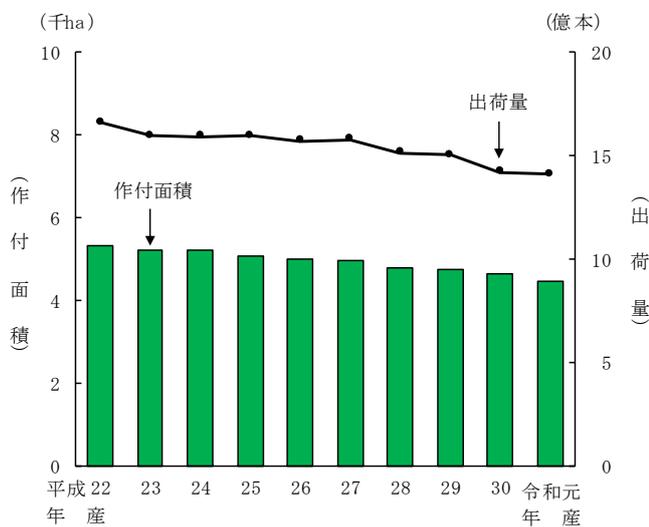
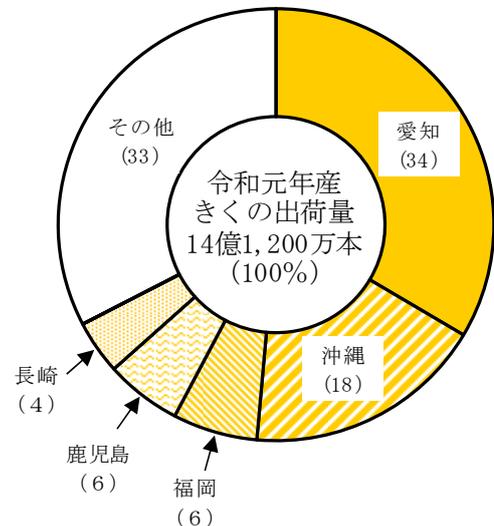


図5 きくの都道府県別出荷量割合



注：割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない。

イ カーネーション

作付面積は271haで、前年産に比べ19ha（7%）減少した。

出荷量は2億2,270万本で、前年産に比べ1,140万本（5%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、長野県が21%で最も高く、次いで愛知県が20%、北海道及び兵庫県がそれぞれ9%、千葉県が8%となっており、この5道県で全国の約7割を占めている。

図6 カーネーションの作付面積及び出荷量の推移

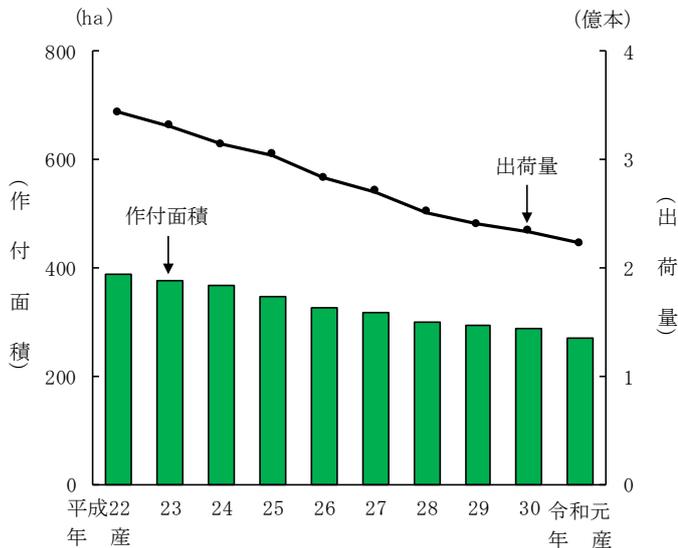
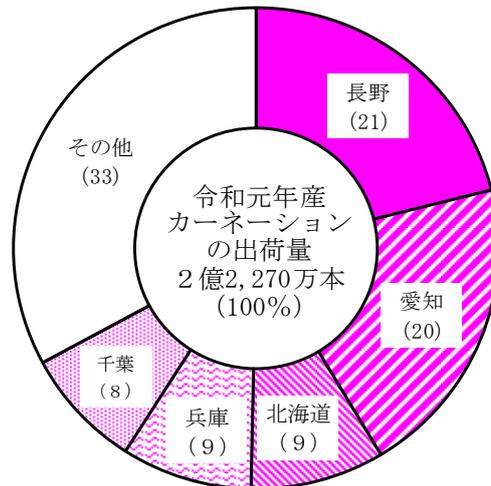


図7 カーネーションの都道府県別出荷量割合



ウ ばら

作付面積は302haで、前年産に比べ23ha（7%）減少した。

出荷量は2億2,120万本で、前年産に比べ1,480万本（6%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が18%で最も高く、次いで静岡県が9%、山形県及び福岡県がそれぞれ7%、愛媛県が6%となっている。

図8 ばらの作付面積及び出荷量の推移

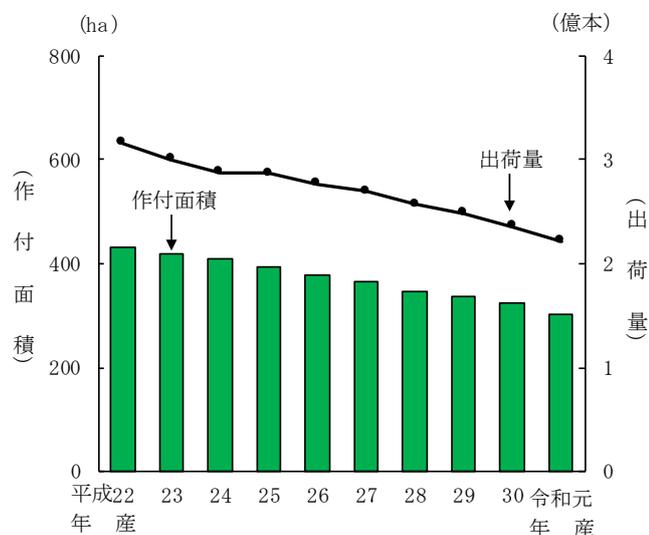
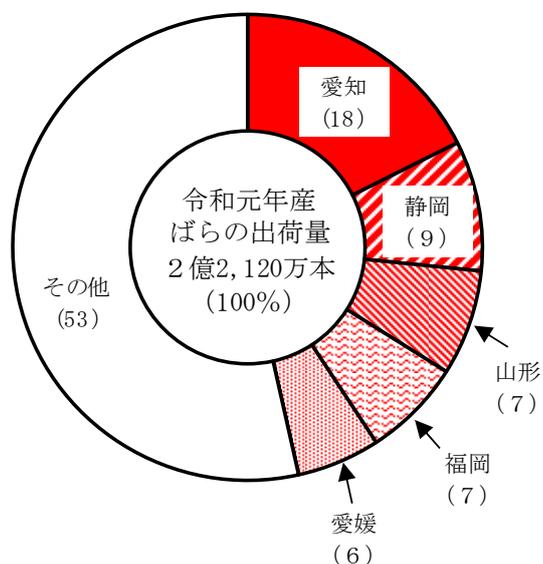


図9 ばらの都道府県別出荷量割合



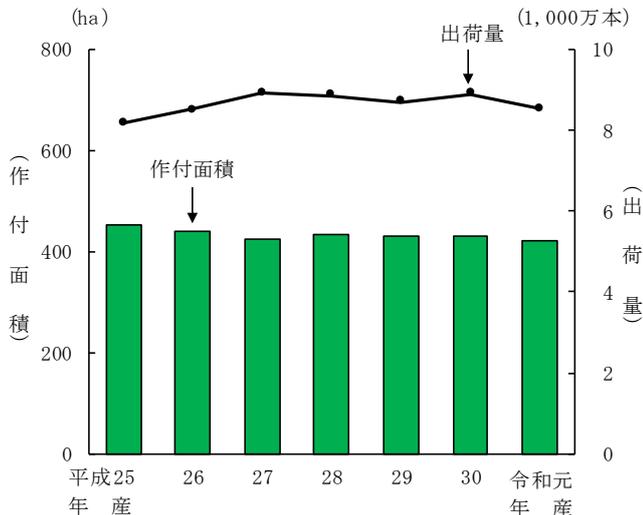
エ りんどう

作付面積は422haで、前年産に比べ10ha（2%）減少した。

出荷量は8,520万本で、前年産に比べ370万本（4%）減少した。

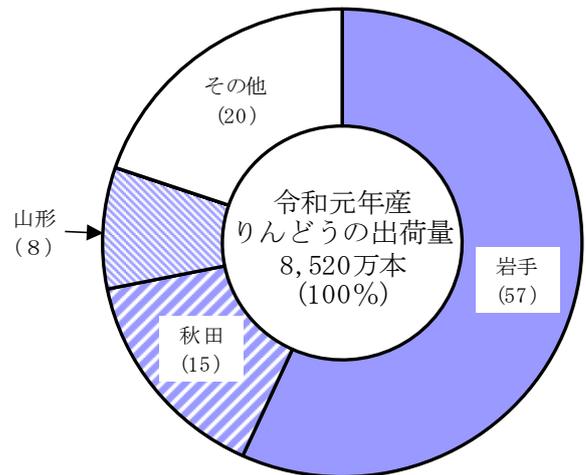
都道府県別出荷量割合は、岩手県が57%で最も高く、次いで秋田県が15%、山形県が8%となっており、この3県で全国の8割を占めている。

図10 りんどうの作付面積及び出荷量の推移



注：調査対象品目の要件を満たしたため、平成25年産から「りんどう」を調査対象に追加した。

図11 りんどうの都道府県別出荷量割合



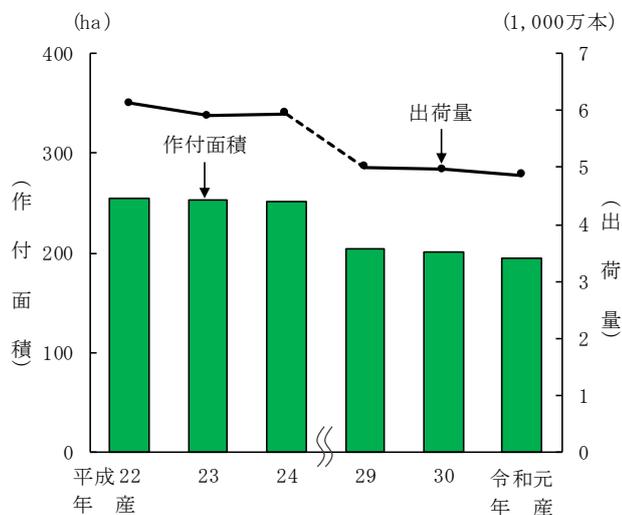
オ 宿根かすみそう

作付面積は194haで、前年産に比べ7ha（3%）減少した。

出荷量は4,870万本で、前年産に比べ90万本（2%）減少した。

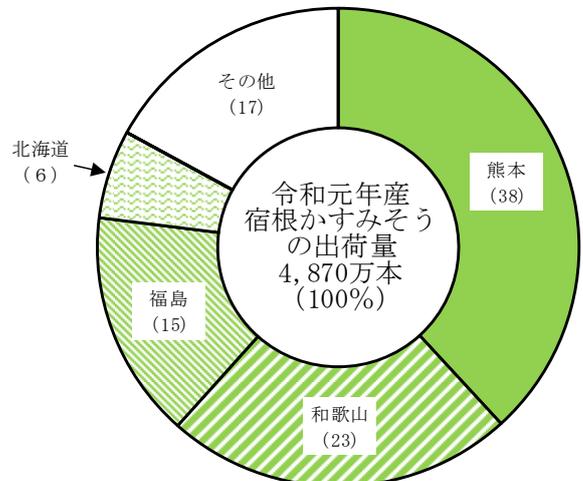
都道府県別出荷量割合は、熊本県が38%で最も高く、次いで和歌山県が23%、福島県が15%、北海道が6%となっており、この4道県で全国の約8割を占めている。

図12 宿根かすみそうの作付面積及び出荷量の推移



注：「宿根かすみそう」については、調査対象品目の要件を満たさなくなったことにより平成25年産から調査対象から外れたものの、平成29年産から再び要件を満たしたため、調査対象に追加した。

図13 宿根かすみそうの都道府県別出荷量割合



注：割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない。

カ 洋ラン類

作付面積は119haで、前年産に比べ5ha（4％）減少した。

出荷量は1,460万本で、前年産に比べ70万本（5％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、福岡県が16％で最も高く、次いで徳島県が14％、沖縄県が10％、埼玉県が9％、静岡県が8％となっており、この5県で全国の約6割を占めている。

図 14 洋ラン類の作付面積及び出荷量の推移

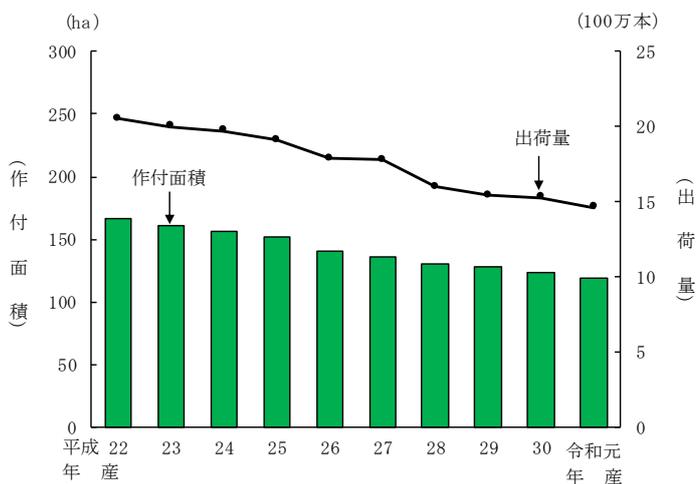
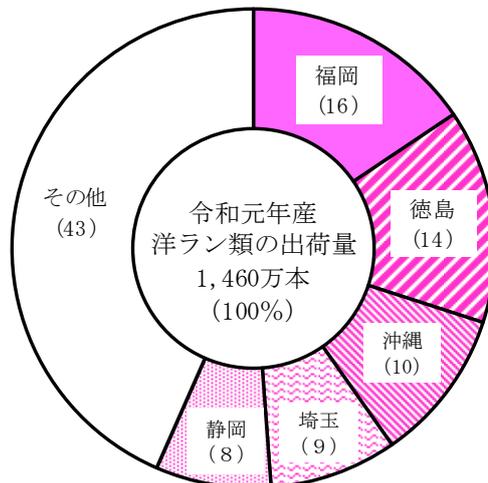


図 15 洋ラン類の都道府県別出荷量割合



キ スタース

作付面積は170haで、前年産に比べ16ha（9％）減少した。

出荷量は1億1,900万本で、前年産に比べ270万本（2％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、和歌山県が55％で最も高く、次いで北海道が27％となっており、この2道県で全国の約8割を占めている。

図 16 スタースの作付面積及び出荷量の推移

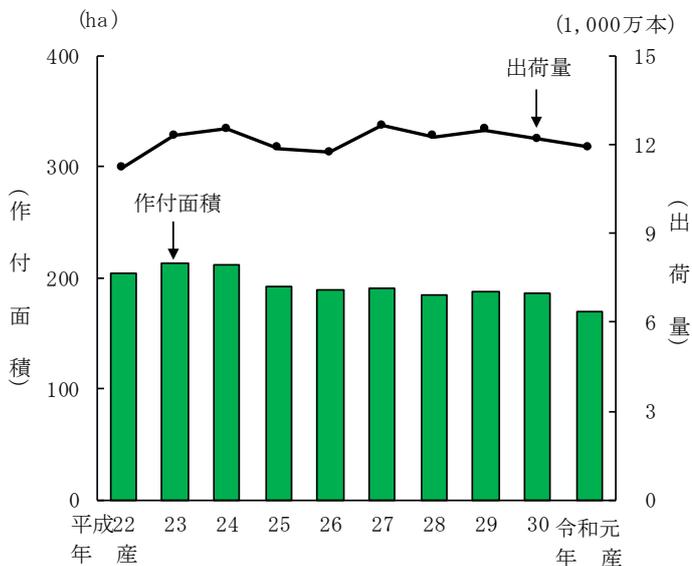
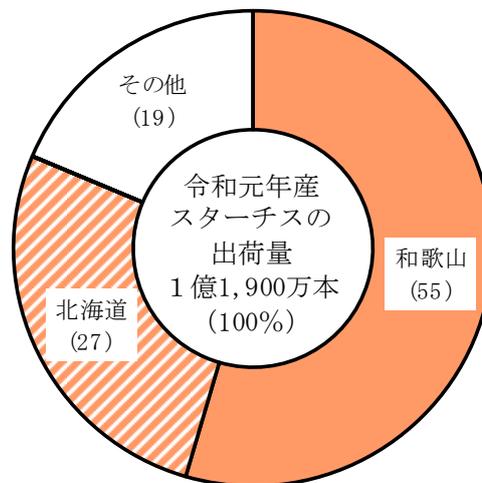


図 17 スタースの都道府県別出荷量割合



注：割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない。

ク ガーベラ

作付面積は82haで、前年産に比べ6 ha（7%）減少した。

出荷量は1億3,660万本で、前年産に比べ680万本（5%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、静岡県が41%で最も高く、次いで福岡県が14%、和歌山県が9%、愛知県が7%、長崎県が5%となっており、この5県で全国の約8割を占めている。

図 18 ガーベラの作付面積及び出荷量の推移

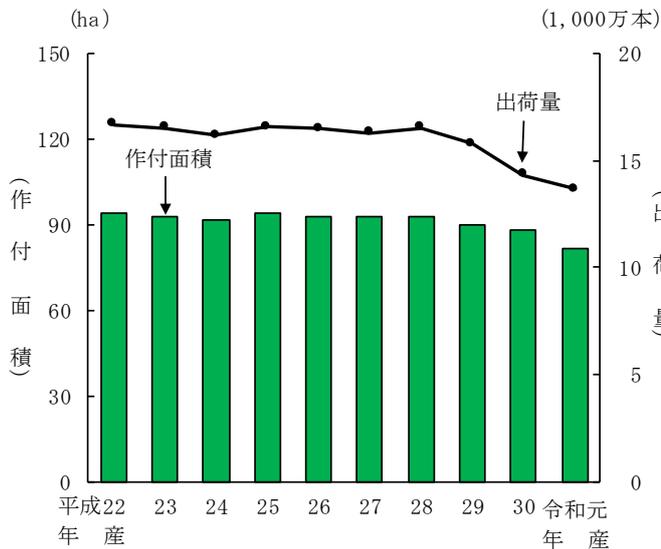
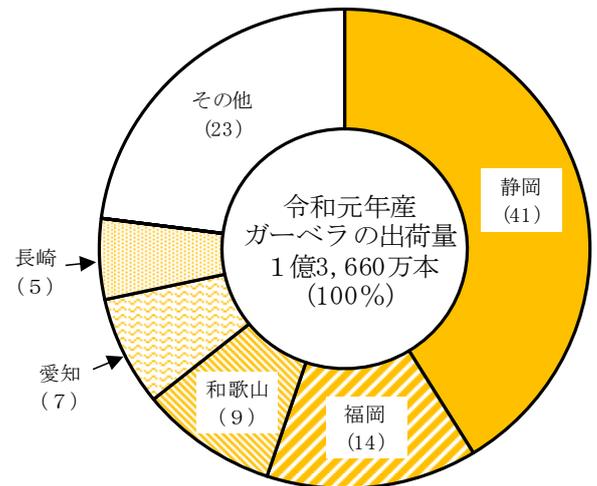


図 19 ガーベラの都道府県別出荷量割合



注：割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない。

ケ トルコギキョウ

作付面積は424haで、前年産並みとなった。

出荷量は9,710万本で、前年産に比べ120万本（1%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、長野県が14%で最も高く、次いで熊本県が13%、福岡県が9%、山形県及び静岡県がそれぞれ5%となっている。

図 20 トルコギキョウの作付面積及び出荷量の推移

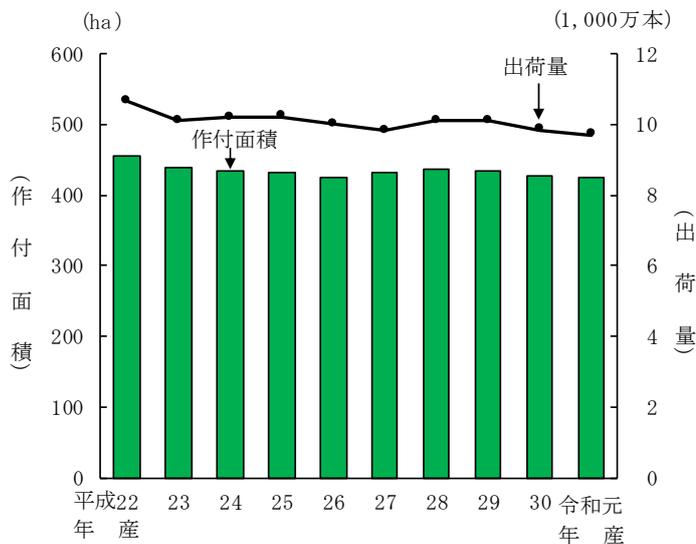
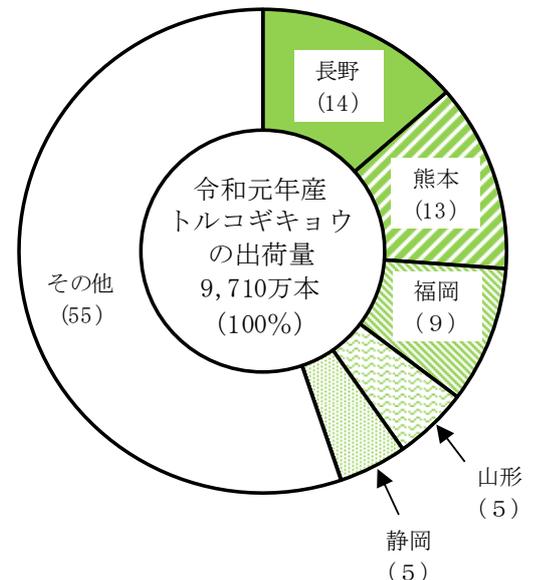


図 21 トルコギキョウの都道府県別出荷量割合



注：割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない。

コ ゆり

作付面積は693haで、前年産に比べ20ha（3%）減少した。

出荷量は1億2,400万本で、前年産に比べ630万本（5%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、埼玉県が20%で最も高く、次いで高知県が11%、新潟県が9%、鹿児島県及び北海道がそれぞれ6%となっており、この5道県で全国の約5割を占めている。

図 22 ゆりの作付面積及び出荷量の推移

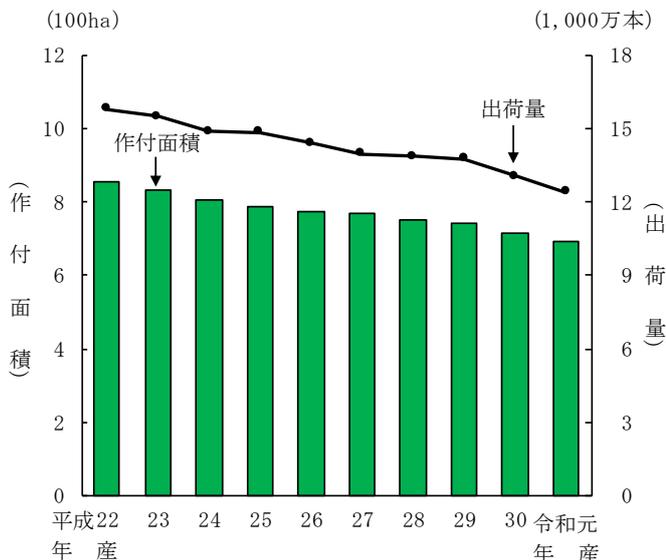
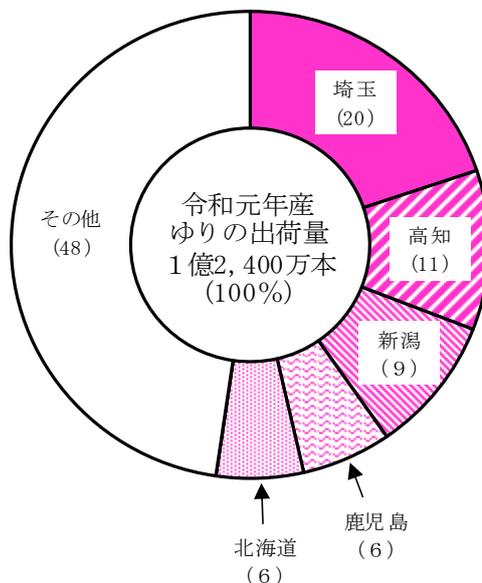


図 23 ゆりの都道府県別出荷量割合



サ アルストロメリア

作付面積は79haで、前年産に比べ1ha（1%）増加した。

出荷量は5,750万本で、前年産に比べ280万本（5%）増加した。これは、長野県及び愛知県において、おおむね天候に恵まれ生育が良好であったこと等による。

都道府県別出荷量割合は、長野県が36%で最も高く、次いで愛知県が20%、山形県が12%、北海道が10%、茨城県が5%となっており、この5道県で全国の約8割を占めている。

図 24 アルストロメリアの作付面積及び出荷量の推移

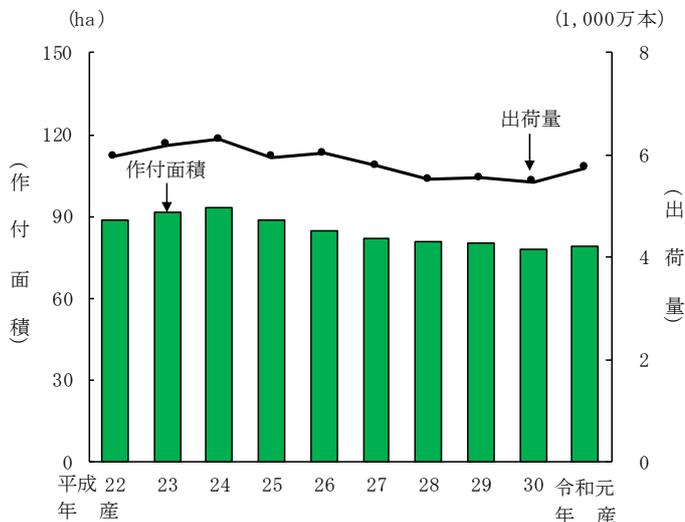
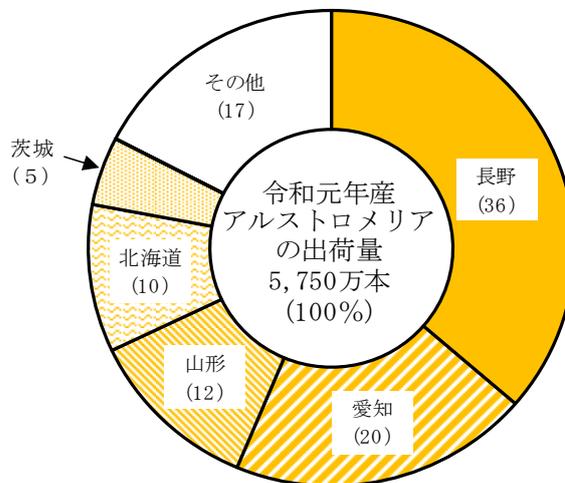


図 25 アルストロメリアの都道府県別出荷量割合



シ 切り葉

作付面積は609haで、前年産に比べ38ha（6％）減少した。

出荷量は1億2,180万本で、前年産に比べ870万本（8％）増加した。これは、東京都において、おおむね天候に恵まれ、台風被害等のあった前年産に比べて生育が良好であったこと等による。

都道府県別出荷量割合は、東京都が36％で最も高く、次いで沖縄県が20％、鹿児島県が14％、静岡県が6％、千葉県が3％となっており、この5都県で全国の約8割を占めている。

図 26 切り葉の作付面積及び出荷量の推移

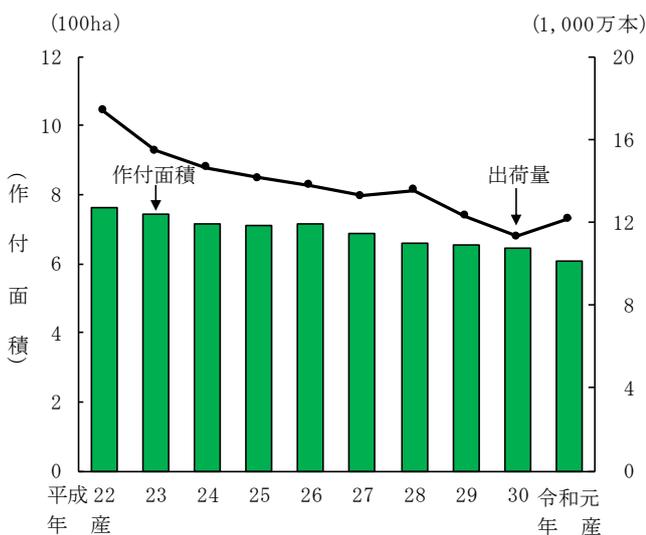
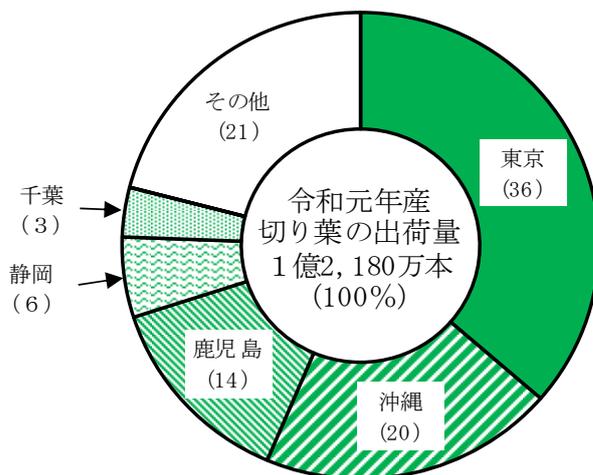


図 27 切り葉の都道府県別出荷量割合



ス 切り枝

作付面積は3,620haで、前年産に比べ54ha（1％）減少した。

出荷量は2億590万本で、前年産に比べ280万本（1％）増加した。

都道府県別出荷量割合は、静岡県及び茨城県がそれぞれ15％で最も高く、次いで和歌山県が8％、宮崎県が6％、愛媛県が4％となっている。

図 28 切り枝の作付面積及び出荷量の推移

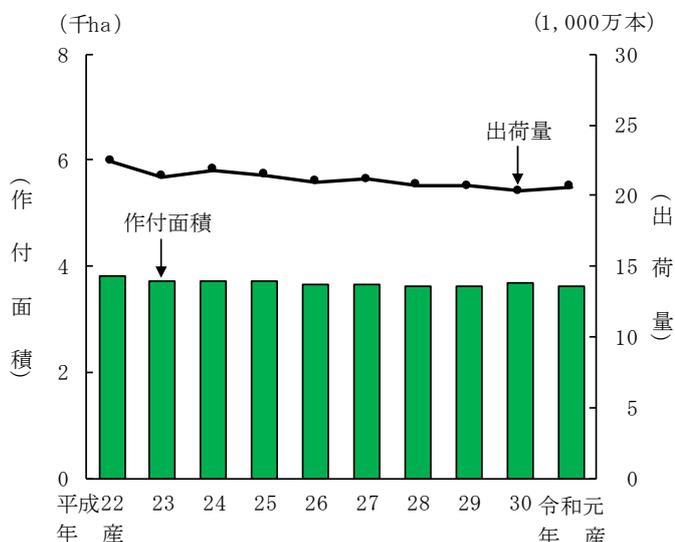
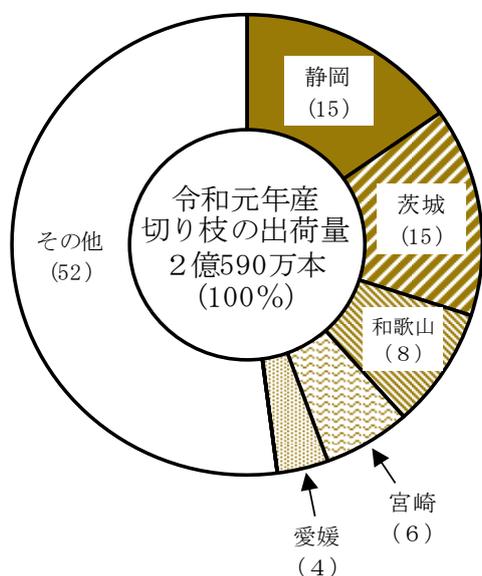


図 29 切り枝の都道府県別出荷量割合



(2) 球根類

収穫面積は259haで、前年産に比べ28ha（10%）減少した。これは、生産者の高齢化等により規模を縮小したこと等による。

出荷量は7,630万球で、前年産に比べ930万球（11%）減少した。これは、収穫面積が減少したこと等による。

都道府県別出荷量割合は、鹿児島県が22%で最も高く、次いで富山県及び新潟県がそれぞれ19%、愛知県が9%、宮崎県が8%となっており、この5県で全国の約8割を占めている。

図 30 球根類の収穫面積及び出荷量の推移

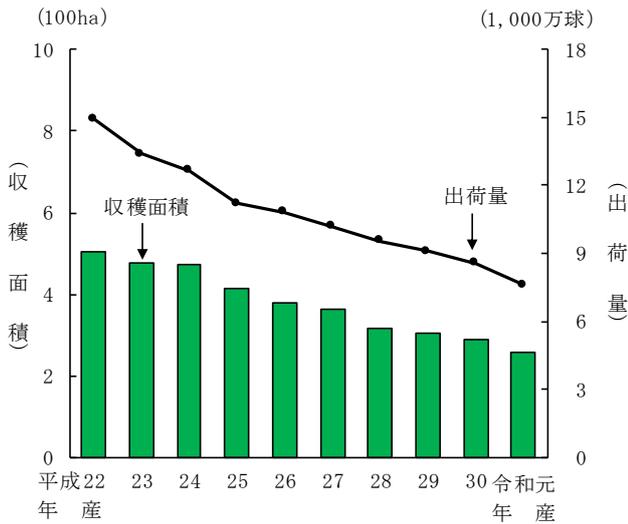
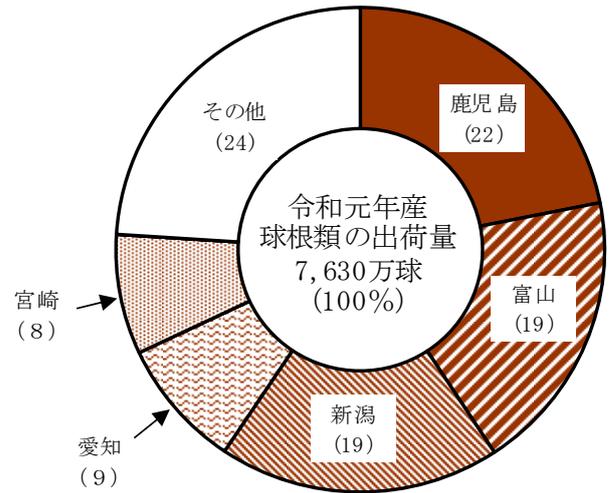


図 31 球根類の都道府県別出荷量割合



注：割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない。

表 3 令和元年産球根類の収穫面積及び出荷量（全国）

類	収穫面積	出荷量	対前年産比	
			収穫面積	出荷量
球根類	ha	万球	%	%
	259	7,630	90	89

(3) 鉢ものの類

収穫面積は1,549haで、前年産に比べ56ha（3%）減少した。これは、生産者の高齢化等により規模を縮小したこと等による。

出荷量は2億500万鉢で、前年産に比べ460万鉢（2%）減少した。これは、収穫面積が減少したこと等による。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が26%で最も高く、次いで埼玉県が10%、岐阜県及び静岡県がそれぞれ7%、茨城県が5%となっており、この5県で全国の約6割を占めている。

品目別出荷量割合は、花木類が21%で最も高く、次いで観葉植物が18%、シクラメンが8%、洋ラン類が7%となっている。

図 32 鉢ものの類の収穫面積及び出荷量の推移

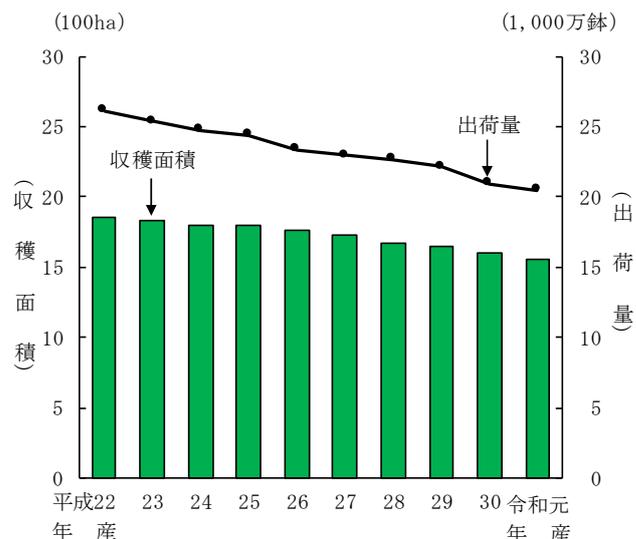
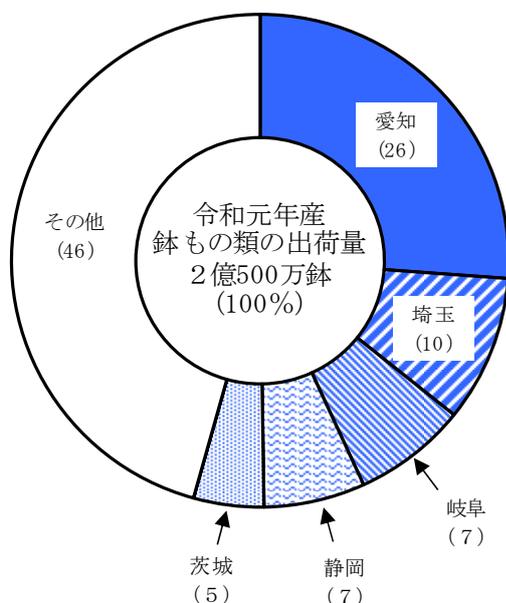
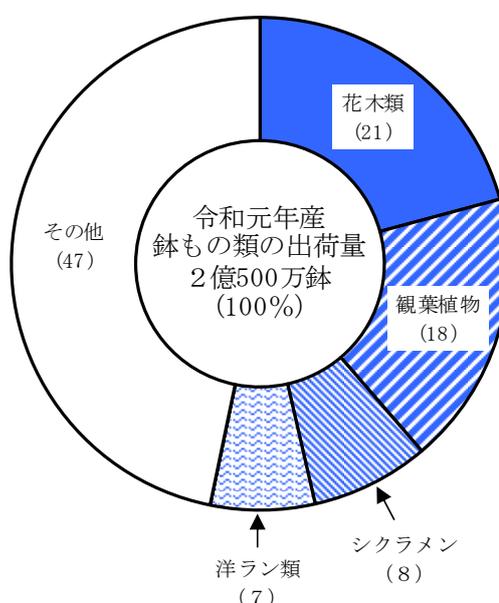


図 33 鉢ものの類の都道府県別出荷量割合



注： 割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない。

図 34 鉢ものの類の品目別出荷量割合



注： 割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない。

表 4 令和元年産鉢ものの類の収穫面積及び出荷量（全国）

類・品目	収穫面積	出荷量	対前年産比	
			収穫面積	出荷量
鉢ものの類	1,549	20,500	97	98
うちシクラメン	167	1,580	94	99
洋ラン類	178	1,390	95	96
観葉植物	271	3,680	92	90
花木類	351	4,260	94	103

注：鉢ものの類の値は、表章されている内訳品目以外の品目を含んだ合計である。

ア シクラメン

収穫面積は167haで、前年産に比べ10ha（6%）減少した。

出荷量は1,580万鉢で、前年産に比べ20万鉢（1%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、長野県が14%で最も高く、次いで愛知県が11%、栃木県が6%、千葉県及び茨城県がそれぞれ5%となっている。

図 35 シクラメンの収穫面積及び出荷量の推移

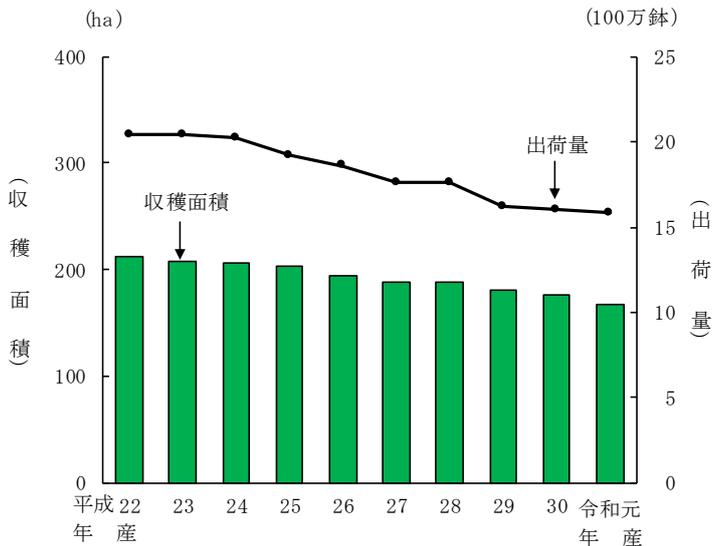
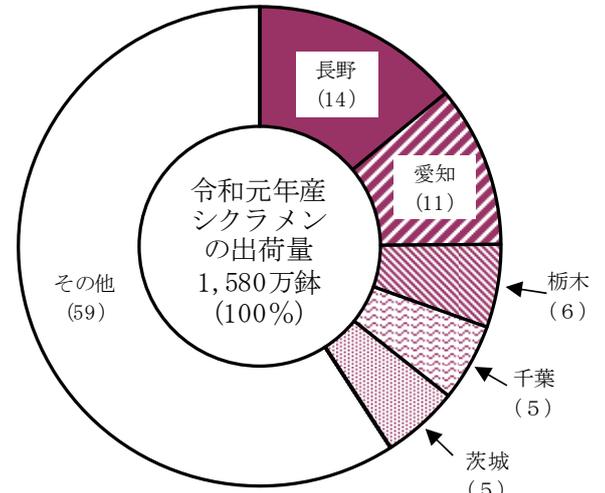


図 36 シクラメンの都道府県別出荷量割合



イ 洋ラン類

収穫面積は178haで、前年産に比べ9ha（5%）減少した。

出荷量は1,390万鉢で、前年産に比べ60万鉢（4%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が24%で最も高く、次いで熊本県及び福岡県がそれぞれ9%、千葉県が7%、山梨県が6%となっており、この5県で全国の約6割を占めている。

図 37 洋ラン類の収穫面積及び出荷量の推移

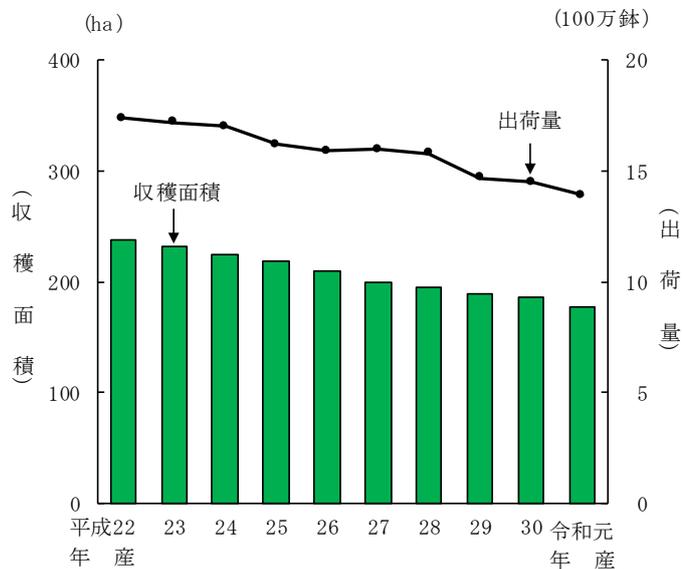
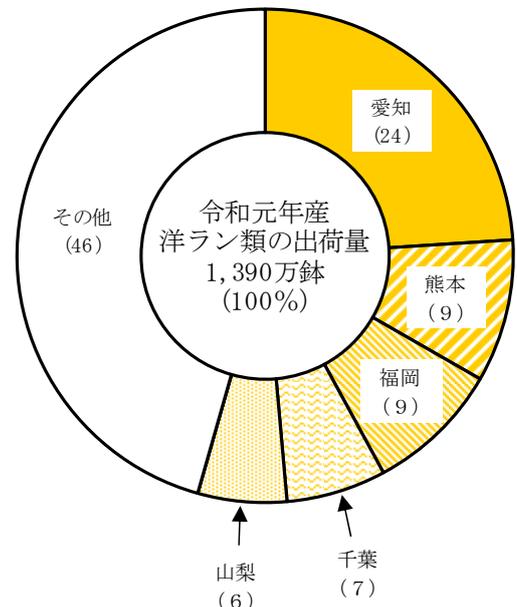


図 38 洋ラン類の都道府県別出荷量割合



注：割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない。

ウ 観葉植物

収穫面積は271haで、前年産に比べ23ha（8%）減少した。

出荷量は3,680万鉢で、前年産に比べ400万鉢（10%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が50%で最も高く、次いで静岡県が13%、岐阜県及び三重県がそれぞれ6%、鹿児島県が4%となっており、この5県で全国の約8割を占めている。

図 39 観葉植物の収穫面積及び出荷量の推移

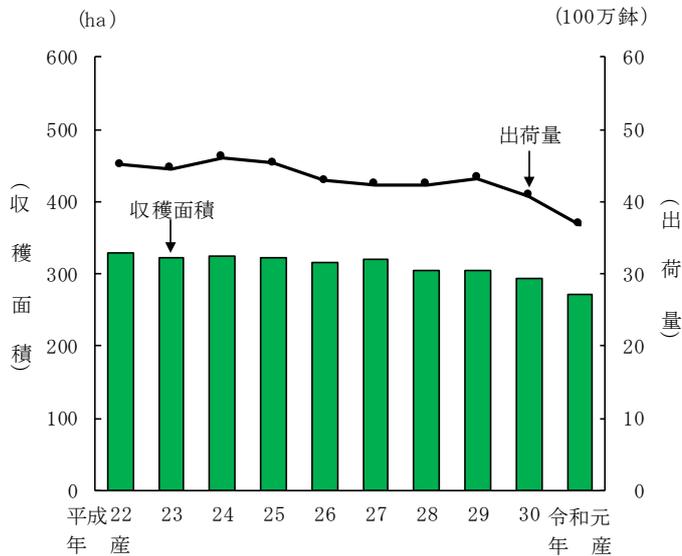
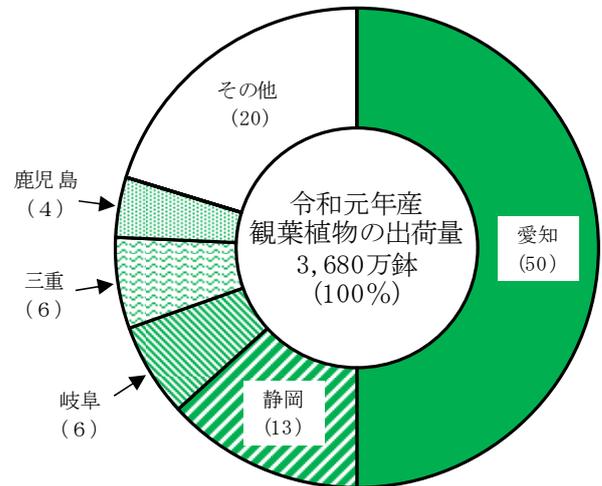


図 40 観葉植物の都道府県別出荷量割合



注：割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない。

エ 花木類

収穫面積は351haで、前年産に比べ22ha（6%）減少した。

出荷量は4,260万鉢で、前年産に比べ110万鉢（3%）増加した。これは、愛知県において、おおむね天候に恵まれ、台風被害等があった前年産に比べて生育が良好であったこと等による。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が33%で最も高く、次いで新潟県が15%、岐阜県が12%、埼玉県が6%、静岡県が5%となっており、この5県で全国の約7割を占めている。

図 41 花木類の収穫面積及び出荷量の推移

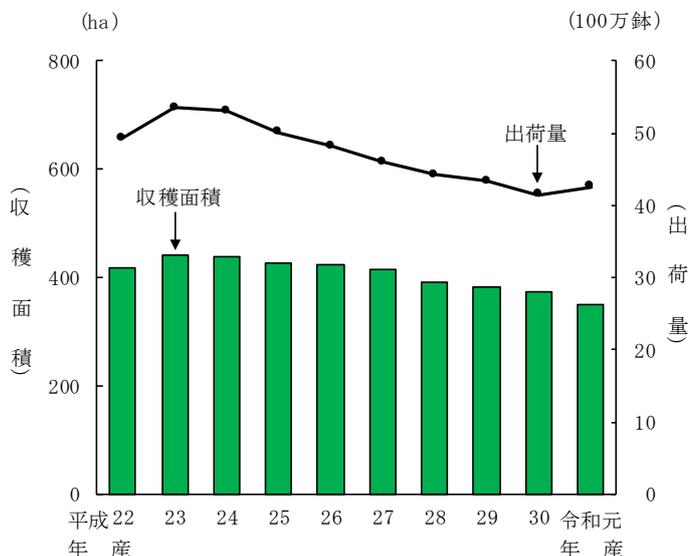
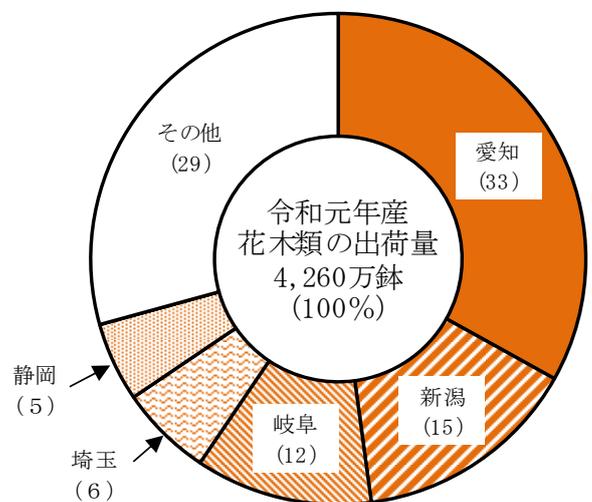


図 42 花木類の都道府県別出荷量割合



(4) 花壇用苗もの類

作付面積は1,327haで、前年産に比べ51ha（4%）減少した。これは、生産者の高齢化等により規模を縮小したことや他作物へ転換したこと等による。

出荷量は5億7,900万本で、前年産に比べ1,940万本（3%）減少した。これは、作付面積が減少したこと等による

都道府県別出荷量割合は、埼玉県が9%で最も高く、次いで愛知県及び千葉県がそれぞれ7%、兵庫県が5%、茨城県が4%となっている。

図 43 花壇用苗もの類の作付面積及び出荷量の推移

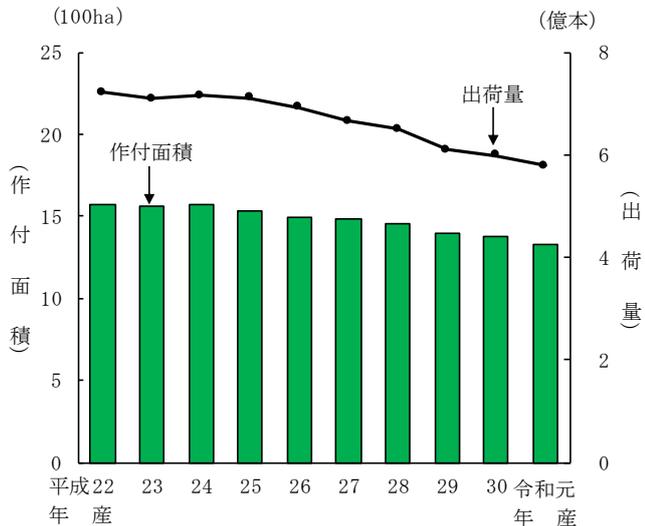
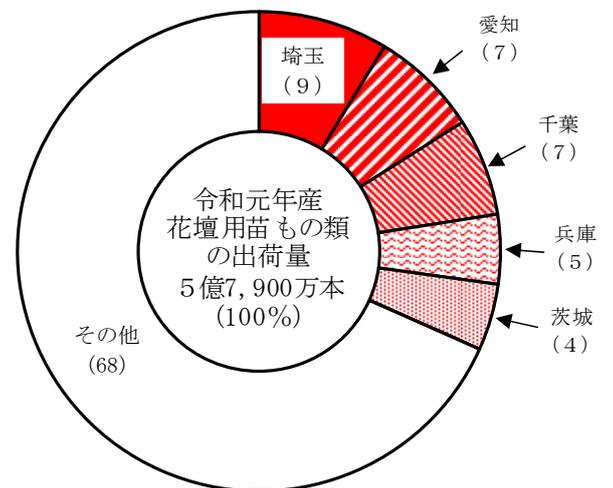


図 44 花壇用苗もの類の都道府県別出荷量割合



このうち、パンジーの作付面積は252haで、前年産に比べ5ha（2%）減少した。

出荷量は1億1,870万本で、前年産に比べ440万本（4%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、埼玉県が8%で最も高く、次いで奈良県、神奈川県及び三重県がそれぞれ6%、愛知県が5%となっている。

図 45 パンジーの作付面積及び出荷量の推移

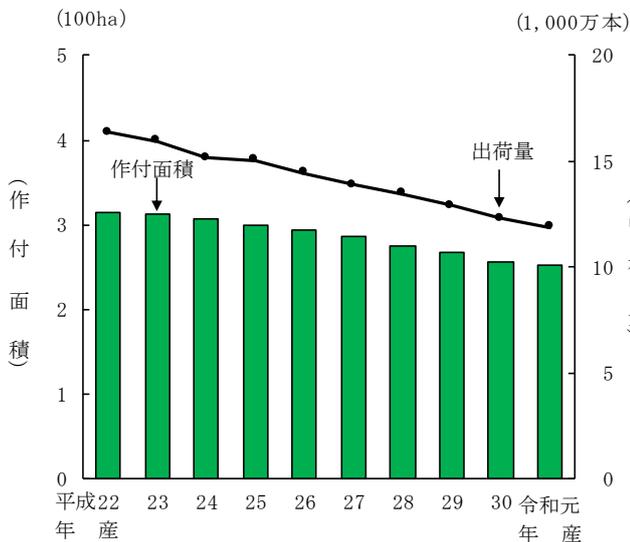


図 46 パンジーの都道府県別出荷量割合

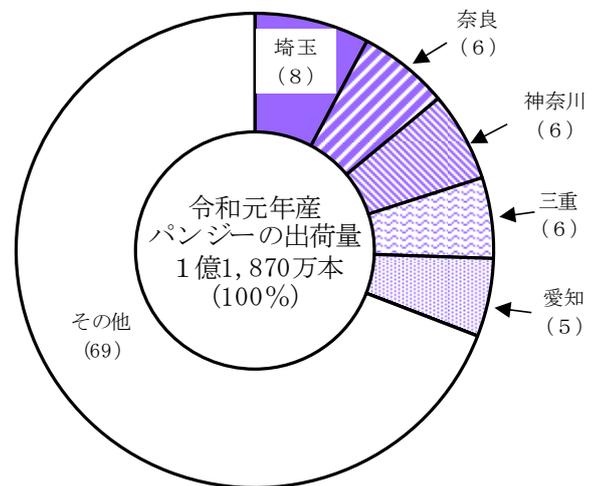


表 5 令和元年産花壇用苗もの類の作付面積及び出荷量（全国）

類・品目	作付面積	出荷量	対前年産比	
			作付面積	出荷量
	ha	万本	%	%
花壇用苗もの類	1,327	57,900	96	97
うちパンジー	252	11,870	98	96

注：花壇用苗もの類の値は、表章されている内訳品目以外の品目を含んだ合計である。